

1 法人の概要

1) 沿革

昭和15年12月28日	財団法人村上学園設置認可
16年 4月 1日	布施高等女学校開校
22年 4月 1日	布施高等女学校附属中学校開校
23年 4月 1日	新制高校の発足により布施学院高等学校と改称
24年 2月15日	布施女子高等学校、同中学校と改称
26年 3月13日	財団法人村上学園は学校法人村上学園となる
28年 4月22日	学校法人村上学園布施女子高等学校附属幼稚園開園
38年 4月 1日	学校法人村上学園柏原女子高等学校開校
39年 1月25日	学校法人村上学園柏原高等学校と校名変更、男子部を併設
40年 1月25日	布施女子短期大学（42年4月、東大阪短期大学と校名変更）家政科設置認可を得、開学
41年 1月25日	布施女子短期大学保育科を増設
43年 4月 1日	家政科を家政学専攻と食物栄養学専攻に分離認可
44年 4月 1日	保育科を幼児教育学科に改称（47年3月廃止）
45年 2月 9日	児童教育学科設置認可を得、同年4月1日開設
45年 4月 1日	家政学専攻を服飾デザイン専攻に改称 柏原高等学校、女子部を廃止
48年 4月 1日	児童教育学科を初等教育学と幼児教育学に専攻分離
63年 3月31日	東大阪中学校廃校認可を得、廃校
平成11年 7月28日	児童教育学科の初等教育学専攻の募集停止届出
12年 3月 1日	家政学科に生活福祉専攻設置認可を得、同年4月1日開設
13年 3月31日	児童教育学科の初等教育学専攻廃止届出
13年 5月15日	校名変更認可、平成14年4月から東大阪高等学校を敬愛女子高等学校と改称
14年 4月 1日	児童教育学科を幼児教育学科に、服飾デザイン専攻を生活デザイン専攻に名称変更
14年12月19日	東大阪大学設置認可、平成15年4月1日開学 校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学を東大阪大学短期大学部と改称
15年 1月24日	校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学附属幼稚園を東大阪大学附属幼稚園と改称
15年 4月 1日	東大阪大学こども学部こども学科開学
18年 4月 1日	敬愛女子高等学校を東大阪大学敬愛高等学校に名称変更 柏原高等学校を東大阪大学柏原高等学校に名称変更

			東大阪大学短期大学部家政学科を健康福祉学科に、食物栄養学専攻を健康栄養専攻に名称変更
			家政学科生活デザイン専攻を平成18年度より募集停止
19年	3月31日		家政学科生活デザイン専攻廃止届出
22年	3月31日		東大阪大学敬愛高等学校商業科廃止
22年	4月1日		健康福祉学科を健康栄養学科に名称変更
			健康栄養学科生活福祉専攻を平成22年度より募集停止
23年	3月31日		健康栄養学科生活福祉専攻廃止
23年	4月1日		東大阪大学こども学部アジアこども学科開設
28年	4月1日		東大阪大学短期大学部健康栄養学科を実践食物学科に、幼児教育学科を実践保育学科に名称変更
30年	4月1日		東大阪大学短期大学部介護福祉学科開設
令和3年	4月1日		東大阪大学こども学部アジアこども学科を国際教養こども学科に名称変更

2) 設置する学校・学部・学科 (令和4年度)

- (1) 東大阪大学 こども学部 こども学科
国際教養こども学科
- (2) 東大阪大学短期大学部 実践食物学科
実践保育学科
介護福祉学科
- (3) 東大阪大学敬愛高等学校 普通科 (全日制課程)
- (4) 東大阪大学柏原高等学校 普通科 (全日制課程)
- (5) 東大阪大学附属幼稚園

3) 当該学校・学部・学科の学生数 (令和4年5月1日現在)

学 校 名	学部・学科名	学生・生徒数
東大阪大学	こども学部	331
東大阪大学短期大学部	実践食物学科	94
	実践保育学科	69
	介護福祉学科	125
東大阪大学敬愛高等学校	普通科	658
東大阪大学柏原高等学校	普通科	507
東大阪大学附属幼稚園		292
合計		2,076

4) 役員の概要 (令和4年4月1日現在)

(1) 役員 理事 7人、監事 2人 (任期: 令和7年7月3日【7-1-1 除く】)

寄附行為	役職名	氏名
7-1-2	理事長	村上 靖平
7-1-2	理事	栗岡二三子
7-1-3	理事	佐伯 勇
7-1-3	理事	筒井 宣興
7-1-1	理事	吉岡真知子
7-1-2	理事	金治 延幸
7-1-3	理事	別所諭貴夫
8	監事	中道 均
8	監事	室井 博子

(2) 評議員 15人 (任期: 令和7年7月3日)

寄附行為	氏名	寄附行為	氏名
21-1-2	栗岡二三子	21-1-1	山田ゆかり
21-1-1	村上 靖平	21-1-1	森内 徹
21-1-3	妻野 京子	21-1-1	出口 和隆
21-1-3	吉岡真知子	21-1-1	新 浩幸
21-1-3	別所諭貴夫	21-1-1	小林 康行
21-1-3	西田 眞男	21-1-1	南方 孝一
21-1-3	金治 延幸	21-1-3	宮里 円香
21-1-3	三浦 常治		

5) 教職員の概要 (令和4年5月1日現在)

	教員		職員		合計
	専任	非常勤	専任	非常勤	
法人部門	0	0	12	7	19
東大阪大学	22	27	16	10	75
東大阪大学短期大学部	33	36	14	4	87
東大阪大学敬愛高等学校	46	14	7	6	73
東大阪大学柏原高等学校	49	11	11	11	82
東大阪大学附属幼稚園	17	4	6	3	30
合計	167	92	66	41	366

2 令和4年度事業計画における進捗状況等

I 教育内容の充実

イ) 改革推進委員会の立ち上げ

○学校で新コースについて「モノづくり」を基本にコース立ち上げを計画

- ・東大阪市役所に学校で検討した素案を持参し、企業の紹介や指導者の斡旋等の相談を仰ぐために出向いた。

※結果：実施にあたり問題点を多く指摘していただいたことと、学内では既存の4コースが募集定員になった場合の教室・実習教室の確保などが困難であることなどから、新コースの立ち上げは現状では問題点が多く、既存の4つのコースの充実に力を入れることにする。

ロ) 教科指導 (ICT教育の充実)

- ・タブレット端末、プロジェクターは **Classi**・**MetaMoji** 等のアプリを授業で活用
また、パフォーマンス課題、小テストでも活用し効果が出ている。

- ・新学習指導要領における「観点別学習状況の評価」について

※生徒の主体的な学びに対する意識が芽生えてきている、また、パフォーマンス課題等を通じて学んだことをどのように活用するかが理解できてきている。

※単元ごとの小テストの実施により、学習に対する理解が増してきている。

※観点別学習状況の評価が開始されるのに伴い、手探りの状況で実施し、問題点や改善点の検討が次年度に向けての課題である。

※来年度は授業時数の確保の点から、中間考査を無くすことにする。

- ・毎週の小テストの実施と学期ごとの「学力診断テスト」について

※学力診断テストについては、「GTZの向上が全国的にも稀」とであると、ベネッセから分析され、秋にはベネッセ主催の基礎学力向上研究会にて発表を依頼され参加。他校からも評価を受けた。

ハ) 学級経営 (担任の取組)

- ・タブレット端末 (**Classi**) を利用し、生徒個人の振り返りを学級単位で実施することで、担任と生徒との情報共有ができた。

ニ) 保健室来室・生徒相談件数

- ・保健室来室について

※本年度もコロナ感染症対策を継続し、コロナ感染の疑いがある発熱・風邪症状の生徒に自宅での休養を優先する対応を実施。

※来室者数は昨年度よりも増加傾向。気持ちの不調が身体症状に現れる生徒の利用が増加。

※保健室対応をしているが、生徒相談に関連するので、保健室との棲みわけが必要。

- ・生徒相談

※相談件数：17 ケース (1年4件、2年10件、3年3件)

※相談内容は、学校生活への不安、自傷行為、家庭環境、心因性の体調不良などの悩みが中心であった。

※対応については、管理職、学年主任、学級担任、SC、保健室と連携し、相談しな

がら実施した。

※今年度はS Cに週 1 回来校して頂き、生徒面談をメインに対応した。

面談を増やしたいが、時数不足のため生徒相談係（養護教諭）で対応するが、内容が困難な場合が多く、住みわけと相談者の確保が必要である。

※係内での打ち合わせや共有が実施できなかったため、来年度は定期的の実施したい。今後も情報共有と連携、チーム対応の整備を目標に、本人への理解、具体的な対応や支援の方針について検討し、係として取り組む必要がある。

II 各コースの充実

イ) 総合進学コース

・今年度より、「進路」「ホスピタリティ」「課外活動」の3分野に分けて、担任で取り組んだ。

※進路では、分野別進路ガイダンスの実施など、生徒の希望する進路についての専門的な知識が身についた。

※ホスピタリティ（コミュニケーション能力・人間力）では、担当教員が授業内容を事細かに計画・準備をしたことで、担任による授業内容の差がでず、充実した時間となった。

※担当教員の資料作成には、非常に負担が多いという問題がある。また、今年度は全学年一斉に同じ内容の「ホスピタリティ」の授業を実施したため、3年間を通して学んでいく授業計画を新1年生で導入することを検討する必要がある。

※課外活動では、本年度は土曜日の時間が少なかったが、学校内外の清掃活動を実施し、その中でSDGsの意識付けにつながることが出来た。

ロ) こども教育コース

・こども研究科目について

※今年度より1年生で「保育技術検定」という授業を開講し、検定試験に挑戦した。

6割を超える生徒が3級に合格し、生徒たちも検定試験に向けて練習に取り組む姿が見られ大変よかった。

※3年生のレクリエーション実習の授業では、今年度は10人（昨年度3人）の資格申請者があった。

※大学講義は大学が18名、短期大学部が10名であった。

・幼稚園実習について

※非常に充実した実習が実施できた。昼食時間を30分とし、さらに実習時間を30分延長したため、園児たちと関わる時間を多く確保できた。

※「キッズイングリッシュ」の発表については、幼稚園の音楽発表会の時期と重なっており、幼稚園の先生方は子どもたちの練習指導に追われているため、発表の時間を作っていただくことが非常に厳しいと感じた。来年度は時期を少し検討する必要があると感じる。

・ピアノレッスンについて

※今年は希望者が非常に多く、講師の先生の手配、レッスン時間の調整が非常に難

しかつた。最終的に、東大阪大学短期大学部の先生に依頼した。また、先生のご提案で、ピアノ発表会の前の週にグランドピアノでのリハーサルを実施した。その結果、生徒の意識が高まり、非常にすばらしい発表会をすることができた。来年度は音楽室ではなく、大講義室での発表会も検討したい。

ハ) 調理製菓コース

- ・高大連携授業について

※例年通り実施。進路について考える機会となるので可能な限り実施し、内部進学を増やせるよう取り組んだ。今後は栄養士コースの高大連携授業ができるよう検討していきたい。(大学施設の貸与も依頼したい)

- ・産官学連携について

※昨年度実施した産官学連携により誕生した「おいもっふる」を秋祭りや、企業が開催した祭にて配布した。また新しい取り組みとして、大阪調理製菓専門学校とコラボし新しいお菓子を開発、花園エキスポにて販売することができた。次年度についても引き続き花園エキスポに向けて新たな商品の開発を検討したい。

- ・感謝の食事会について

※コロナウイルスの感染症予防の観点から保護者には今年度についてはお弁当の持ち帰りで対応した。実習をしている様子を見学など、3年間の感謝を伝えられる機会になった。次年度以降についても同様に実施したい。

ニ) ファッション創造コース

○1年目のコースでコース担当者・大阪文化服装学院からの外部講師と連携し、試行錯誤を重ね、実施した。

- ・カリキュラムについて

※3名の特別講師の年度当初から熱心な指導により、1期生は授業内容に満足をしてくれた。特別講師にしか指導ができない知識・技能を生徒たちは身に付けた。

※「ファッションデザイン」という科目名が、カリキュラム内容と合致せず違和感があるため、今後科目名を変更することを検討する。

- ・コース行事

※大阪文化服装学院訪問では、体験授業の内容は、非常によかった。

服のデザインの発想がどこから来ているのかなど、普段の授業では知り得ない内容、かつコラージュへの気持ちが高まった。また、専門学校生の作品を間近に見ることができ、手作りの素晴らしさも実感できた。また、大阪文化服装学院のファッションショーを鑑賞することも検討したい。

※ヘアメイク発表会では、1単位の授業であるため、プレゼンテーションに割く時間がなく、ヘアメイクを完成させることに集中しすぎた。パワーポイントやプレゼンテーション内容のフォーマットは事前に用意する必要を感じた。

※コースの最大の目標でもある敬愛祭でのファッションショーは、作品の完成が約1か月遅くなったが、アレンジまで実施し制作したスカートの個性が出てよかった。また、在校生モデル(他コース)も参加し、意義のあるファッションショーとなった。

Ⅲ 生徒会活動の充実

イ) 体育祭について ※来場者 321名

- ・3年目のラクタブドームでの実施は生徒・保護者ともに好評であった。雨天でも変更なく実施できる点も良かった。体育科とも連携し感染症対策を講じた競技を考案し実施した。

ロ) 敬愛祭について ※来場者 1,131名

- ・感染症対策を実施し、多くの来場者を迎え、従来の敬愛祭に近いものが実施でき、生徒が楽しめていた点では非常に良かった。
 - ・3日間とも大きな問題なく実施できたが、すべてにおいて教員の人手不足であると思われる。
 - ・吉本演芸鑑賞、K I グランプリは生徒の鑑賞態度が良く、演技に賞賛する姿もあり、生徒の感想もとても良かった。
 - ・準備期間を十分にとることが必要であり、1学期中の詳細決定・連絡が望ましい。また、敬愛祭2日目が模擬店中心となっているため、内容を見直す必要がある。
- ※デジタルパンフレットは大幅な経費削減になっている。一部希望者には紙も対応できるため、今後もデジタルパンフレットを継続する。
- ※各行事については、生徒たちは充実したものになっているが、身だしなみや生徒指導上、徹底する面と「お祭りの要素」で緩和する面との調整が必要。

ハ) クラブ活動について

- ・ほとんどの大会が通常通り開催され、体育部・文化部ともに活躍し、活性化してきた。

ニ) その他

- ・クラブ体験、スポーツ大会、愛の募金活動、耐寒行事などの行事も生徒会役員が中心となり実施した。
- ・近隣住民と協力してのボランティア活動は、残念ながら不実施となった。

Ⅳ 生徒指導の徹底

イ) 問題行動の指導案件

- ・全体的な規範意識は年々向上していると言えるが、怠業や SNS への不適切な投稿など、人間関係のトラブルや精神的に不安定な状態から問題行動につながる案件が増えている。また、モペット自転車など新しく便利なものが増えているが生徒が知識の少ない状態で、無意識に法律や校則を違反してしまうなどの案件も増えている。
- ・留学生の問題行動等が増加した。留学生に対しても声掛けや留学生支援部と協力し、情報共有するなど日本の文化の理解を求めることや、規範意識向上につながる取り組みを実施するなどの課題が残る。

ロ) イエローカードによる指導

- ・ポイント数は、減少しており、学校全体、各学年の取り組みの成果が現れ、規範意識

が向上している。

- ・指導方法については規範意識が向上していることもあり緩和する方向。その一環として令和5年度より、身だしなみ指導（頭髪指導除く）をイエロー指導より除外し、マナー指導とする。

V 進路保障の徹底

イ) 進学について

- ・内部進学者数は41名（大学17名短期大学24名）で昨年より13名の増加となった。特に、こども教育コースからの進学が増えた。
- ・進学者の多くは内部進学、指定校推薦、A0入試・総合型選抜等を利用して受験した。今年度は特別進学クラスを中心に公募入試での受験も多く、産近甲龍・摂神追桃などへの合格者も増加した。
※主に学校での授業と、塾での学習が合格の要因である。
※公募入試への取り組みは、担任・進路からの意識付けが必要である。

ロ) 就職について

- ・就職者は減少傾向にあるが、合格者16名の内、販売・接客業が7名、製造業等が6名で大半を占めている。
※就職（求人）はコロナ前に戻りつつある。1人2社制も導入され、それに伴い各社内定を出しやすい状況になってきている。
※指定校求人を利用する生徒が減少傾向にあり、通常の求人票からの就職が大半を占めている。

VI 入試広報部の充実

イ) OS・入試説明会について

- ・生徒主体のプログラムを実施し、参加生徒も非常に協力的な生徒で中学生のアンケートでも生徒が褒められることも多く、在校生の満足度の高さを伝えられた。
※OSは全て予約制で全6回（午前200名、午後200名募集）ドリームフェスタ・秋祭り
・入試説明会2回実施したが回数を増やすことで大幅な増加を見込んだが分散され微増であった。（昨年1800名、本年1900名）
※ドリームフェスタ（コース別説明会）は大学の先生の協力も得て体験会を実施したが、中学生にその名称が伝わりきらない面もあり来校者が伸びなかった。
- ・制服ファッションショーをファッション創造コースの生徒で実施するなど各コースの体験を事前に担当講師に依頼し、充実した内容にすることができた。中学校の先生や面接で受験生から「OSの体験で気に入って生徒が選びました」という声が多くあった。来年度もOSごとに内容を変化させ、複数回来ていただける内容で継続する。

ロ) SNS・HPについて

- ・今年度は生徒会役員にたくさんのYouTube動画やInstagramのストーリーでの配信など多くの投稿を行った。非常に好評であったと感じており、来年度も在校生の様子や学校行事の楽しさを伝えていけるように生徒会指導部と協力して実施する。

- ※昨年度からオープンスクールなどでフォロー企画を行い Instagram のフォロワー 1,000 人を目標にしていたが、12 月時点で約 940 名と目標達成には至らなかった。
- ※生徒の表情や学校行事だけでなく、来年度は 4 月当初の投稿は「インスタ映え・継続的な企画」を意識し、進路を考え始める秋ごろに生徒の様子などを投稿し本校の魅力を伝えるなど戦略をたてて有効的に SNS を活用していきたい。
- ※今年度の途中より「LINE」のアカウントを作成し、OS 参加者や説明会で友だち登録をしてもらうことにより、こちらから情報の配信をすることができるため一定の効果があつた。

ハ) 冬休み受験集中講座について

- ・昨年同様、1 日の開催で内容も各教科分野別にし、中学生の選択制で実施した。
- ・中学生の評判は非常に良かったように思う。来年度も同じような方法で実施していきたい。

二) 中学校訪問・塾訪問について

- ・今年度も生徒募集担当者全員が近隣の重点校を担当し、重きを置いて訪問した。併願の受験者数が減ってしまったのは反省点であるが、専願の受験者数は増えたため、来年度も近隣校を重点的に訪問する。
- ・中学校説明会や出前授業、体験授業などは新型コロナウイルスの影響が少し落ち着きだしたこともあり、説明会のみが 2 校、出前授業のみが 1 校、説明会・出前授業が 1 校、高校体験が 4 校に参加した。
- ・東大阪市立英田中学校からは 40 名の受験者がいた。来年度も説明会や出前授業等には積極的に参加していきたい。
※募集担当が担任を兼ねている教員がほとんどであることから、重点校への訪問が少なくなった。担任が募集することの利点もあるが、検討が必要。
- ・今年度は、入試広報部で一人 1～4 塾を担当。また 8 月から塾訪問専属担当者を 1 名招き実施した。塾の先生方からも好評で、コースの説明やチラシの配布などを中心に、かなり多くの塾に訪問ができた。新規の塾も開拓できており、引き続き募集活動を継続していきたい。

Ⅶ 留学支援部

イ) ・令和 4 年度在籍数

月		1 年	2 年	3 年	計
3 月	進級	0	9	28	37
4 月	新入	6	2	6	14
10 月		3	14	0	17
計		9	25	34	68

・令和 5 年度進級・入学見込み

月		1 年	2 年	3 年	計
3 月	進級	0	4	23	27
4 月	新入	3	5	3	11
10 月					未定
計		3	9	26	38

- ・本年度の在籍は 68 名（令和元年度 122 名、令和 2 年度 84 名、令和 3 年度 69 名）となり、減少が続いている。しかしながら、徐々に新型コロナウイルスも落ち着いてき

ており、現地での募集活動も再開されつつある。募集活動に協力し、留学生生徒の増加を目指す。

ロ) 生徒指導について

- ・本年度は指導を受けた生徒が多く、イエローカードの枚数も多かった。
1人が複数枚の指導を受けていることも多い。

ハ) 進学について

- ・3年卒業生32名中、外部4年制大学29名（立命館大学1、京都産業大学3、近畿大学3、龍谷大学1など）、専門学校2名、日本語学校1名となった。内部進学は0名。本年度も有名私立レベルの進学実績を残すことができ、次年度以降の広報へつなげることができた。

※次年度以降は更に日本語教育に授業内容を・時間をかける必要がある。

VIII その他

- ・学校案内、チラシ、ポスターについては昨年度に引き続き「Beside you キミに寄り添う敬愛」をキャッチフレーズとして採用し、学校案内やポスターで前面にPRした。
- ・「調理製菓コース」の専願化は問題が多く、実施は困難。しかし、施設の増設（大学からの貸与）、指導者の問題など検討が必要である。

3 財務の概要

別添 令和4年度	資金収支計算書	
	事業活動収支計算書	
	貸借対照表	
	財産目録	
	監査報告書	参照